

亜急性硬化性全脳炎の疫学調査

研究分担者: 杏林大学医学部小児科 岡 明

亜急性硬化性全脳炎 全国サーベイランス調査

目的: 本疾患の新規患者の発生状況の把握
本疾患の現状での臨床経過
治療法の選択との関連
追跡調査

サーベイランス2012
新規患者の把握
全国主要医療機関への調査
(一次調査 患者数の把握
二次調査 実態について調査票)
患者会を通じてご協力をお願いします

•先行する麻疹感染に関する情報(有無、年齢、予防接種状況、罹患時の免疫状態、その時点の居住地)
•発症に関する情報(発症時期、診断時年齢)
•治療に関する情報(これまでの治療、現在の治療)
•現在の状況
•サーベイランス2007のその後の臨床経過およびその間の治療法

本疾患の我が国における新規発生患者の把握
本疾患の臨床経過
治療による効果の評価

本疾患克服に向けた
基礎的な資料の作成

研究施設 杏林大学医学部、福島県立医科大学小児科、岡山大学大学院発達神経病態学、熊本大学医学部発達小児科、静岡県立こども病院神経科、大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科、石巻赤十字病院

解 説

1. 我が国は依然として先進国で唯一の麻疹流行国であり、亜急性硬化性全脳炎の発生のリスクを抱えている。
2. 平成24年に本疾患のサーベイランス調査一次調査を行い、現在二次調査にて最近の発症者については麻罹患から発症にいたる状況、長期罹患患者については最近の医療的な状況などを調査している。